

逗子の未来協議会 レポート (平成29年3月)

No.8

「逗子の未来協議会」とは（仮称）逗子市自治基本条例の検討を行うワークショップのことです。

第8回ワークショップテーマは「市民参加」

第8回目の逗子の未来協議会では、「市民参加」をテーマとし、本市の市民参加を考える上で「一番大切なこと」、「現状の市民参加をより有効にするための方法や仕組み」について話し合いました。

本市には既に市民参加条例があることから、自治基本条例には、市民参加の理念等基本的なことを規定することになると想定されます。

ワークショップで出された意見やアイデアは、自治基本条例の理念に基づいて市民参加条例を運用していくといった観点から、生かしていくことを想定しています。

市民参加条例に基づく市民参加の例

例えば・・・大谷戸会館 (平成26年4月に建て替えました)



建て替えにあたり
①利用団体や近隣住民が参加し、どんな会館にするかワークショップを実施
②パブリックコメントの2つを行いました。

市民参加条例

<市民参加の定義>

市が意思決定をする過程において市民が意見を述べ、又は提案することにより行政活動に参加し、市政を推進すること。

<市民参加の対象>

市政の基本的な事項を定める計画、市民生活に重大な影響がある条例や制度、市の施設の設定等についての計画の策定

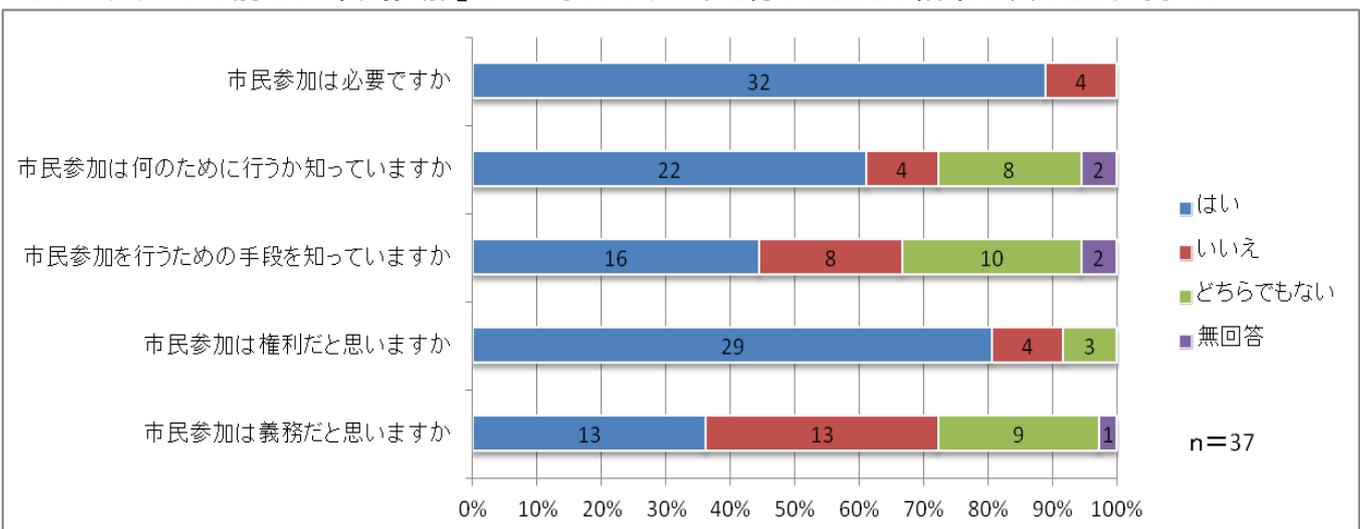
<市民参加の方法>

パブリックコメント（案を広く市民に説明し意見をきくこと）、審議会、懇話会。ワークショップ、アンケート等があります。市民参加は2つ以上の方法を選択して行います。



「市民参加」についての質問

グループワークの前に、「市民参加」についてのアンケートを行ったところ、結果は次のとおりでした。



グループワーク①市民が「市民参加」の制度を活用しきれていない理由 グループワーク②「市民参加」が有効になるアイデアや仕組み

グループワークはワールドカフェ形式で行いました。

①市民が「市民参加」の制度を活用しきれていない理由 ②「市民参加」が有効になるアイデアや仕組みについて話し合い、グループワーク後に、感想を共有するため話し合った内容を各グループから発表しました。

グループワーク後に、参加者の皆さんがアンケートに記入した「市民参加」を考える上で一番大切なこと、現状の「市民参加」をより有効にするための方法や仕組み等のご意見をいくつかご紹介します。

<市民参加に係る工夫・仕組み>

- ・たくさんの方々が参加し、意見交換を気軽にできる仕組み作りが重要。
- ・市民参加のハードルを下げる必要がある。
- ・一人でも問題提起を気軽にできる仕組みが必要。
- ・「市民参加」をしたことによるアウトプット、成果・実感がわくこと。
- ・サロン方式の市民参加活動。

<行政の対応・課題>

- ・市民参加に関心をもてるような仕組みや支援を行政が実施。
- ・パブリックコメントが行政のアリバイ作りになっていないか。
- ・どんな人に意見をもらいたいのか、関心をもってもらうのか？ターゲットを絞って情報発信の仕方を工夫。

<周知の重要性>

- ・住民に対して機会を如何に周知していけるかが、最重要ポイント。
- ・市民参加による成果とそのプロセスを市民に広く伝える。
- ・市政の情報を早く正確に十分に知ることができることが大切。

<自治会・住民自治協議会>

- ・自治会に参加していれば市民参加しやすい。
- ・住民自治協議会に集約して意見を出してもらおう。

18歳～49歳の参加者を追加募集！

現在、逗子の未来協議会には約60名の参加者がいますが、40歳代までの方が少ない状況です。これからの逗子のまちづくりについて、是非あなたのお考えをお聞かせください。



<市民の意識・関心>

- ・市民参加に対する関心をもってもらおう。
- ・市民の意識を変えていく必要が大きい。

<意思決定過程への参加>

- ・決定の場に「参加」するだけでなく、決定をどう実施していくかに「参加」する。

<自治基本条例への位置づけ>

- ・自治基本条例に位置づける市民参加は、全員参加を基本とする。

<若い世代の参加>

- ・若い世代の人たちが参加できる制度を作る。参加できればみんな意見は豊富にもっている。

※意見等は、市ホームページでご覧いただけます。

お出かけ円卓フォーラムのお知らせ

「もっと知りたい」にお答えします！

企画課職員が、自治基本条例に関心をお持ちの皆さんのところへ伺って説明を行います。概ね10人以上のグループでお申し込みください。